

文献

抄録

頸および腰の痛みを有する患者に対する訓練指導のあり方

治療者と患者との間のコミュニケーションを円滑かつ効果的にするために適切なイラストを用いた簡単なパンフレットの使用が効果を上げていることが知られている。これは①パンフレットが十分満足出来る情報伝達補助手段となり得る。②ある程度の時間が経過しても、与えられた情報をうまく保続するのに適している。③簡単な文章で、ほとんどの患者に十分情報を伝達できる。などの事実を示すものであるが、一方また最も重要な情報は、まずもって秩序立てて提示され、そして疾病の管理や治療に関することは、簡潔・明瞭であるべきことも示唆している。その後の研究では、イラストを用いることが文章表現より本質的に優れた方法であるとは考えられないことが判明しているし、Joyce らは Foss らの研究を検索し、情報の再現性と臨床状態の改善度との間に何ら関係は認められないとも報告している。筆者らはこれらの点を実際治療の場で確かめるべく、Northwick Park Hospital の PT 部門で、患者が次の3つのうちどの方法が情報を保続し、そして再現しうるかをみるため研究計画を立てた。すなわち①患者に PT が訓練プログラムを簡単なイラスト入りのパンフレットを使って指導し、それをまた家庭でも行わせる方法、②患者に①と同様のプログラムを PT がパンフレットを全く使わず指導する方法、③患者にパンフレットを与えて彼自身でそれを読み、家庭で行うよう指示するのみの方法、の3つである。このことにより治療体操に関する患者の理解とその協力態度を①文章と口頭指示、②口頭指示および③文章指示のみの3つの条件下で比較することが可能である。

頸の痛みを訴える者 19 名、腰の痛みを訴える者 20 名を対象に、上記研究計画に従い次の3群に対象者を分けた。A 群：パンフレットを使って訓練を指導、B 群：パンフレットを使わず訓練を指導、C 群：パンフレットを与えるのみ。成績の評価は、2週間後に全く新顔のセラピストにより訓練の理解度や指示が守られているかなどがチェックされた。チェック・リストは、患者の記憶度合および実際に訓練を実演させてみて6段階で評価された。また頸や腰の痛みの評価は、患者の主観的訴えをもとに5段階で行われた。その結果、患者の理解度と協力性は、A 群が最も良く、次いで C、B 群となった。この結果は興味あるが、PT 部門でセラピストにより指導される訓練が単なる紙きれ一枚に劣っているなどという批判ではない。問題は、患者が訓練プログラムに参加しようとしても、病院という新しい環境下の中で、あるいは疾病に対する不安などにより混乱を来すことで、なかなかその指導効果が上りにくいことを挙げるべきである。パンフレットを使って PT が指導する方法が一番患者の理解度も協力態度も良く、また痛みの軽減効果も優れていた。このことは、患者教育には、ありとあらゆる手段を用いて、患者に情報伝達を行い、患者に方向づけをしてあげることがより効果をあげる上で大切なことを示唆している。

Glossop ES et al : Patient Compliance in Back and Neck Pain, Physiotherapy 68(7) : 225-226, 1982

(神戸大学医療技術短期大学部 理学療法士

嶋田 智明)